

14. 回路方程式とその解き方

回路のグラフ表現と基本式のまとめ

- 枝電圧 V ,枝電流 I は n 要素、節点電圧 W は m 要素のベクトル。
- キルヒホッフ第一則(電流平衡)

$$[D]I = J_D \quad J_D: \text{各節点に流入する電流源の和}$$

$$[C]I = J_C \quad J_C: \text{各基本カットセット中に存在する電流源の和}$$

- キルヒホッフ第二則(電圧平衡)

$$[B]V = E \quad E: \text{各基本ループに沿って存在する電圧源の和}$$

$$[D]^T W = V \quad W: \text{各節点電圧を表すベクトル}$$

- オームの法則

$$V = [Z]I$$

$$I = [Y]V$$

- 節点電圧と枝電圧との関係

$$[D]^T W = V$$

基本式の活用法:

- E を既知として、 I を求める
- J を既知として、 V を求める

方法:

- C, B の双対性に注目して
行列変換

枝電流、枝電圧のベクトル表現

- 第一法則(電流則)

$$[C]I = J_C$$

$$\Leftrightarrow [[U][C_l]] \begin{bmatrix} I_t \\ I_l \end{bmatrix} = J_C$$

補木(link)起因の成分

$$I = \begin{bmatrix} I_1 \\ I_2 \\ I_5 \\ I_3 \\ I_4 \\ I_6 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} I_t \\ I_l \end{bmatrix}$$

補木(link)の枝電流

- 第二法則(電圧則)

$$[B]V = E$$

$$\Leftrightarrow [[B_t][U]] \begin{bmatrix} V_t \\ V_l \end{bmatrix} = E$$

木(tree)起因の成分

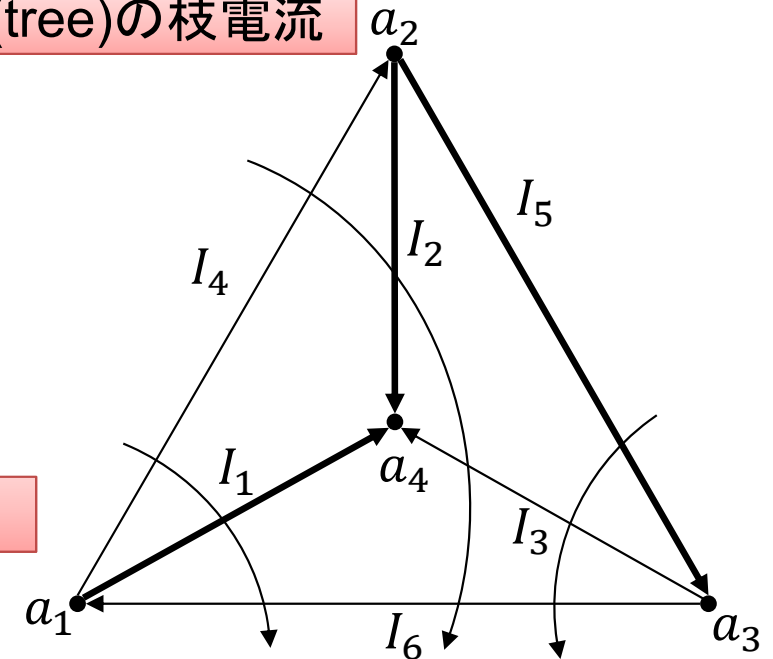
$$V = \begin{bmatrix} V_1 \\ V_2 \\ V_5 \\ V_3 \\ V_4 \\ V_6 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} V_t \\ V_l \end{bmatrix}$$

補木(link)の枝電圧

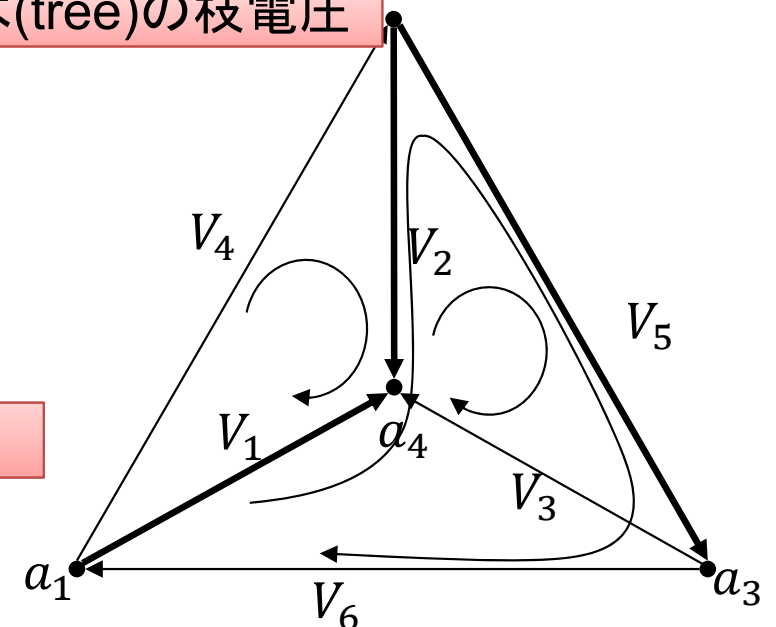
- $[C]$ と $[B]$ の関係

$$[C_l] = -[B_t]^T$$

木(tree)の枝電流



木(tree)の枝電圧



ループ解析(枝電流法)

独立変数: 補木(link)の枝電流

仮定: 回路が電流源を持たない

$$[B]V = E \quad \dots\dots\dots ①$$

$$V = [Z]I \quad \dots\dots\dots ②$$

$$[[U][C_l]] \begin{bmatrix} I_t \\ I_l \end{bmatrix} = 0 \Leftrightarrow I = [B]^T I_l \quad \dots\dots\dots ③$$

①～③より

$$[B][Z][B]^T I_l = E$$

ループインピーダンス行列

補木(link)の枝電流

各基本ループの電圧源の和＝補木の枝と1対1対応

「木2」の場合、独立変数 I_l の個数は3個
枝電圧・枝電流の個数6個より少ないことに注意。

③の導出

$$\begin{aligned} & [U]I_t + [C_l]I_l = 0 \\ \Leftrightarrow & [U]I_t - [B_t]^T I_l = 0 \\ \Leftrightarrow & I_t = [B_t]^T I_l \\ & I_l = [U]I_l \text{ と縦に並べると} \\ & \begin{bmatrix} I_t \\ I_l \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} [B_t]^T \\ [U] \end{bmatrix} I_l \\ \Leftrightarrow & I = [[B_t][U]]^T I_l \\ \Leftrightarrow & I = [B]^T I_l \end{aligned}$$

カットセット解析(枝電圧法)

独立変数: 木(tree)の枝電圧

仮定: 回路が電圧源を持たない

$$[C]I = J_C \quad \dots\dots\dots ①$$

$$I = [Y]V \quad \dots\dots\dots ②$$

$$[[B_t][U]] \begin{bmatrix} V_t \\ V_l \end{bmatrix} = 0 \Leftrightarrow V = [C]^T V_t \quad \dots\dots\dots ③$$

①～③より

$$[C][Y][C]^T V_t = J_C$$

カットセットアドミタンス行列

木(tree)の枝電圧

基本カットセット中の電流源の和＝木の枝と1対1対応

「木2」の場合、独立変数 V_t の個数は3個
枝電圧・枝電流の個数6個より少ないことに注意。

③の導出

$$\begin{aligned} & [B_t]V_t + [U]V_l = 0 \\ \Leftrightarrow & -[C_l]^T V_t + [U]V_l = 0 \\ \Leftrightarrow & V_l = [C_l]^T V_t \\ & V_t = [U]V_t \text{ と縦に並べると} \\ & \begin{bmatrix} V_t \\ V_l \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} [U] \\ [C_l]^T \end{bmatrix} V_t \\ \Leftrightarrow & V = [[U][C_l]]^T V_t \\ \Leftrightarrow & V = [C]^T V_t \end{aligned}$$

節点解析

独立変数: 節点電位

仮定: 回路が電圧源を持たない

$$[D]I = J_D \quad \dots\dots\dots ①$$

$$I = [Y]V \quad \dots\dots\dots ②$$

$$[D]^T W = V \quad \dots\dots\dots ③$$

①～③より

$$[D][Y][D]^T W = J_D$$

節点アドミタンス行列

節点電圧

各節点に流入する電流源の和

既約接続行列 $[D]$ がわかっていれば、カットセットやループを探索しなくても W を未知数として定式化できる。

「木2」の場合、独立変数 W の個数は節点数の4個
枝電圧・枝電流の個数6個よりは少ない

双対性

- グラフ理論や回路理論では、ある命題について、その中の術語を対となる術後で置き換えた命題を作ると、その命題も成立する場合がある。このような現象を双対性という。

例:

- 電圧は電流に比例し、その比例定数はインピーダンスである。
- ループを構成する枝電圧の和は0である。

対となる術語の例

木	補木
電圧	電流
インピーダンス	アドミタンス
ループ	カットセット
枝電圧	枝電流
直列接続	並列接続
短絡	開放

13. 演習問題

1. 前掲図「木2」をループ解析し、 $[B][Z][B]^T$ の各要素を求めよ。

$$\text{ただし、} I_l = \begin{bmatrix} I_3 \\ I_4 \\ I_6 \end{bmatrix}, E = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ E_6 \end{bmatrix}, [Z] = \begin{bmatrix} Z_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & Z_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & Z_5 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & Z_3 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & Z_4 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & Z_6 \end{bmatrix} \text{とする。}$$

2. 前掲図「木2」をカットセット解析し、 $[C][Y][C]^T$ の各要素を求めよ。

$$\text{ただし、} V_t = \begin{bmatrix} V_1 \\ V_2 \\ V_5 \end{bmatrix}, J_c = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ J_6 \end{bmatrix}, [Y] = \begin{bmatrix} Y_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & Y_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & Y_5 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & Y_3 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & Y_4 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & Y_6 \end{bmatrix} \text{とする。}$$